

小麦黒目粒発生 の 品種間差 と 薬剤防除効果							
〔要約〕 <u>小麦黒目粒</u>の発生には<u>年次間差</u>及び<u>品種間差</u>が認められ、防除対策としては、開花期と開花1週間後の2回、赤かび病の防除を行うことにより発生が抑えられる。							
農産研究所・栽培部・作物品種研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	農 産	専 門	栽 培	対 象	麦 類	分 類	普 及

〔背景・ねらい〕

平成5年産小麦の一部の品種に黒目粒が多く発生し、外観品質の低下を招いた。黒目粒は Cochliobolus sativus や Alternaria sp. の2種類の糸状菌が関与しているといわれているが、平成4年産まで黒目粒の発生はほとんどみられず、その発生実態と対策については十分に明らかにされていない。

そこで、平成6年産の小麦黒目粒発生について品種の違いによる発生実態と薬剤による防除効果を明らかにした。

〔成果の内容・特徴〕

①小麦黒目粒の発生には年次間差が認められ、平成5年産の小麦には多く発生し外観品質の低下を招いているが、平成6年産の小麦には発生が極めて少なく品質への影響はない（表1）。

②黒目粒の発生には品種間差が認められ、奨励品種の中ではチクゴイズミにやや多く発生する（表1）。

③現在、黒目粒の防除薬剤の登録はないが、開花期と開花1週間後の2回の赤かび病防除を行うことにより黒目粒の発生が抑えられ、同時防除が可能である（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

①主要農作物病虫害防除基準及び麦栽培技術指針に登載し、小麦の品質向上のための資料として活用する。

②希釈薬剤の散布量は100 l / 10aとする。

[具体的データ]

表1 生産年が異なる場合の黒目粒発生品の品種間差

生産年	品種・ 系統名	黒目程度		千粒 重	検査 等級
		小	中		
平成年		%	%	g	
3	チコイヅミ	0	0	31.5	5.0
4	チコイヅミ	0	0	41.8	1.7
5	農林61号	0.4	0	37.0	2.3
"	シカネコムキ	4.7	1.0	38.6	2
"	ニシキコムキ	6.2	0.4	39.6	1.3
"	チコイヅミ	22.2	11.6	43.4	3.7
"	西海173号	1.3	0	38.5	2.3
6	農林61号	0	0	38.5	2
"	シカネコムキ	0.3	0	37.8	1
"	ニシキコムキ	0.8	0	39.3	1
"	チコイヅミ	1.8	0	38.6	1
"	西海173号	1.1	0	37.0	2

注) ①黒目粒程度

小: 胚芽種皮に黒い部分があり、黒さの程度も面積も小さい。

中: 黒い部分が濃く、かつ広い。

大: " 中" の程度が大きい。

②検査等級は1等上(1)~2等上(4)~規格外(7)の7段階。

③種子消毒を除き、薬剤防除は各年とも行っていない。

表2 赤かび病防除の黒目粒発生に対する抑制効果

薬 剤 名	希釈 倍率	散 布 時 期		黒目粒 発生率
		開花期	1週間後	
	倍			%
トップジンM水和剤	1000	○	—	4.63
"	"	○	○	1.90
トリフィン乳剤	2000	○	—	3.97
"	"	○	○	2.07
チルト乳剤	2000	○	—	3.23
"	"	○	○	1.10
サルファーゾル	400	○	—	3.77
"	"	○	○	1.47
石灰硫黄合剤	50	○	—	2.80
"	"	○	○	1.23
無処理	—	—	—	5.80

注) ①供試材料は、平成5年産のチクゴイズミ。

②開花期は4月25日、1週間後とは開花1週間後のことを表す。

③検査等級は全て1等である。

[その他]

研究課題名: 麦類奨励品種決定調査

予算区分: 経常

研究期間: 平成5年度(平成5年)

研究担当者: 尾形武文、住吉強、松江勇次

発表論文等: 平成4~5年度麦類奨励品種決定調査成績書